

自然家族事業「湖の日」講座まとめ（2015・8・8）Ⅱ

I、琵琶湖の魚たちのいま（講師；滋賀県立琵琶湖博物館専門研究員中井克樹氏）

1) びわ湖の生きものの現状

| | |
|--|---|
| <p><在来種> もともちいた生きもの *特定の種の有害化 *絶滅危惧種の増加</p> | <p><外来種> あとから来た生きもの *侵入する種類の増加 *特定の種による被害</p> |
| <p>☆人間の活動の影響で生きものたちの数のバランスが崩れる 「減りすぎ」と「増えすぎ」 ↓ ☆わたたくしたちは”原因者”として何をすべきか？ （責任ある対応とは？） ↓ ☆増えすぎの問題に対して・・・ 増えすぎたことによって、放置しておけないほどの影響（被害）をもたらす生きものに対しては、少なくとも我慢できるほどまでにやわらげてゆく取り組みが必要 ☆減りすぎの問題に対して・・・ 減りすぎの原因をやわらげる取り組みが必要</p> <ul style="list-style-type: none">・魚の生息場所や産卵場所の確保・外来魚の駆除・梅雨期の水位低下による産卵場所の被害（産卵場所の水位の確保）・産卵するための魚の移動経路の確保 | |

2) びわ湖の特徴と固有種の存在

- ① 日本一広い湖、十分に深い湖（表面積；約 670 km²、最大水深；104 m）

↓
生きものの棲み場所として十分な多様性と異質性を備えている
（多種多様な生き物が生息できる）

- ②古代湖としての琵琶湖；日本で一番古い湖である。

*現在の北湖盆（北湖）は約40万年前に成立

*現在の琵琶湖は約100万年前からでき始めた。「古びわ湖」（現在の琵琶湖より前にあった琵琶湖）は約400万年前に生まれた。

↓
*生きものたちがそこにしかない「固有種」へ進化するのに十分に

長い間、湖が続いていた。

3) びわ湖と川の魚たち (琵琶湖博物館発行の琵琶湖と川の魚参照)

*滋賀県内には77種の魚が生息している

①在来種; 63種 (うち固有種は16種)

固有種・・・赤字は絶滅危惧種

ビワヨシノボリ、ホンモロコ、ウツセミカジカ、スゴモロコ
オオガタスジシマドジョウ、イサザ、ビワコガタスジシマドジョウ
ヨドゼゼラ、アブラヒガイ、ビワヒガイ、ワタカ、ビワマス、
ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、イワトコナマズ、ビワコオオナマズ

②外来種; 14種 (内4種が国内外来種)

*魚の保全活動・・・は始まっている

- ・外来魚の駆除
- ・ヨシ帯の再生
- ・琵琶湖周辺の水田地帯の水路に魚道を設置し、産卵経路の確保
- ・水質浄化の取り組み

滋賀県立琵琶湖博物館専門研究員中井克樹氏のパワーポイントより

4) 水族館の見学

中井氏の解説により琵琶湖の魚たちを見学した。